

会員様同士の活発な情報交換のために、月に1回お届けしております。

++ CONTENTS ++

- 【1】青銀会理事によるリレーエッセイ :理事 鶴飼 康史 氏
- 【2】学生会による大学発ベンチャー訪問記
- 【3】助成金・イベント・セミナー等のお知らせ
- 【4】後援く 彩都バイオヒルズクラブ―「プロテオミクスシンポジウム」>
- 【5】編集部からのお知らせ
- 【6】編集後記

【1】青銀会リレーエッセイ 寄稿:鶴飼 康史

■ご挨拶:

皆様、平素は格別のご高配を賜りまして厚く御礼を申し上げます。
青銀会理事、日本ベンチャーキャピタル株式会社の鶴飼でございます。
青銀会メールマガジンNo.31において理事のエッセイを担当させて頂き、あれからはや1年近くが経とうとしております。

■昨今のベンチャーを取り巻く状況:

前回是一般には馴染みの薄いベンチャーキャピタルの業務内容をご紹介する内容を執筆させて頂きました。その後1年の間で、ベンチャーを取り巻く環境が大きく変化しておりますので、既にメディア等でご存じの方も多いかとは思いますが、その辺りの状況をまずは書きたいと思います。

i) 上場社数の激減:

国内市場への2007年度(07年4月~08年3月)の新規株式公開(IPO)社数は99社と前年度(187社)からほぼ半減しております。関西圏に本社を置く企業についても、2007年度の上場社数は17社と前年度(40社)の半数をも下回りました。2008年度も引き続き社数の低調は続き、関西圏では10社にも満たないのでは、と言われております。

ii) 株価も低調:

東証マザーズ、大証ヘラクレス等新興株式市場の株価指数は一貫して下落しており、指数算出の最安値圏で推移しております。また新規上場銘柄の初値が公募価格を下回った銘柄の割合は32%と前年度(15%)に比べ大幅に悪化していることから、公募価格の抑制傾向が続いており、上場時に思ったほど資金調達できない状況となっております。

斯様な状況下、ベンチャーキャピタルは国内投資に対して慎重になっていると言われており、海外(特にアジア)投資に大幅にシフトし始めている先もあるようです。そしてベンチャー企業としても、資金調達が厳しくなっているとの声は、よく聞かれます。

■ではどうしましょう?:

上記の通り、ベンチャーを取り巻く環境はまさに負のスパイラルに陥っております。このままでは国の政策でもある、ベンチャー振興による経済活性化は遠のくばかりでしょう。当然私ごととき一市民がどうあがいても有効な解決策など提示しうるはずありませんし、「誰か教えて!」という気持ちが本音ですが、一点だけ、こんな時だからこそ外部環境のせいにはしない事をあえて心掛けようと考えております。

ベンチャーキャピタルの立場としては、国内IPO市場の低調を嘆く前に、もっと何らか効果的なハンズオンの手立てを講じて、投資先の業績向上に寄与できないかを一層考える必要があるかもしれません。またベンチャー企業(特に大学発ベンチャーに多い開発先行型)の立場であれば、資金調達が厳しいことを嘆く前に、より資金が掛からずにスピードアップも可能な開発や販売方法を日々検討すべきでしょうし、すぐに日銭の稼げる事業もやれる範囲ですべきかもしれません。

理念とプランだけでは、上場は難しく、未上場段階のファイナンスも厳しい状況ではありますが、ある程度の実績が伴っていれば、いずれも全くできない訳ではありません。

メールマガジンを受信頂いている皆様に於かれましては、引き続きご支援賜ります様、何卒宜しく

お願い申し上げます。

日本ベンチャーキャピタル(株) 西日本支社 鶴飼

【2】VB訪問記 produced by 学生会Az

♪♪♪

(今回のベンチャー訪問記はお休みさせていただきます。)

先日関東にあるいくつかの大学の学生による学生団体との情報交換に行きました。
今回のミーティング会場は東工大。(本当は東京大学に行きたかった…)10人程の学生が既に話し合いをしていました。

彼らは様々なインターンシップを通して得ることのできた人脈や経験をもっと他の学生に伝え、自分のキャリアを学生にもっと考えてもらうことを目的に活動をしようとしていました。

中にはベンチャーへのインターンに参加した学生もあり、ベンチャーでのインターンシップは責任も大きく自分の成長が感じられるという彼らの意見に同感しました。

しかし、大企業が一斉に行うインターンとは異なりベンチャーへのインターンシップにはベンチャーへのネットワークを作る必要であるという大きなハードルがあります。

そんな中私たち学生会は大学発ベンチャーへのつながりが強く、インターンシップを行うことやベンチャー訪問記を通してネットワークを作ることなどのハードルが低く、非常に優位にあると感じました。

学生と大学発ベンチャーがつながることのできるこの団体の意義をもう一度考え、より活発にしていきたいと考えました。

♪♪♪

【3】イベント・セミナー・助成金等のお知らせ

▼△▼△

産学共同シーズイノベーション化事業「顕在化ステージ」の公募について

大学・公的研究機関等の基礎研究に着目し、産業界の視点からシーズ候補を顕在化させ、大学等と産業界との共同研究によってイノベーションの創出に繋げることを目的とする事業です。

本事業では、「顕在化ステージ」及び「育成ステージ」の研究課題をそれぞれ募集しますが、今回の募集は「顕在化ステージ」のみとなっております。

■公募期間:2008年02月04日(月)～2008年04月07日(月)

■詳細:

<http://www.jst.go.jp/innovate/innov/index.html>

■問い合わせ:

JST技術展開部 イノベーション創出課

TEL: 03-5214-7995 FAX 03-5124-8496

E-mail: innovate@jst.go.jp

▼△▼△

第81回新技術開発助成の募集について

本助成は独創的な新技術の実用化をねらいとしており、基本的技術の確認が終了し実用化を目的とした開発試作を対象とする。

■公募期間:2008年04月02日(水)～2008年04月30日(水)

■詳細:<http://www.sgkz.or.jp>

■問い合わせ:

▼△▼△

平成20年度中小企業・ベンチャー挑戦支援事業のうち実用化研究開発事業
(スタートアップ支援事業)の公募について

新事業展開等を図るために新技術、新製品に関する実用化研究開発を行う中小企業を支援することを目的として、「中小企業・ベンチャー挑戦支援事業のうち実用化研究開発事業(通称:スタートアップ支援事業)を実施しております。

本制度の平成20年度予算に係る公募を行う予定であることを、以下の通りお知らせします。

- 公募期間: 2008年03月26日(水)～2008年04月25日(金)
- 詳細: <http://www.kansai.meti.go.jp/5gisin/kobo20/20SUKoubo.html>
- 問い合わせ:
近畿経済産業局地域経済部技術課課
TEL: 06-6966-6017
FAX: 06-6966-6080

▼△▼△

平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業及び地域資源活用型研究開発事業の公募について

本事業は、地域において新産業・新事業を創出し、地域経済の活性化を図るため、産学官の研究開発資源の最適な組み合わせからなる研究体を組織し、最先端の技術シーズをもとに新製品開発を目指す実用化技術の研究開発を実施するものです。

- 公募期間: 2008年04月01日(火)～2008年04月22日(火)
- 詳細: <http://www.kansai.meti.go.jp/5gisin/kobo20/h20kouboi.html>
- 問い合わせ:
近畿経済産業局地域経済部技術課課
TEL: 06-6966-6017
FAX: 06-6966-6080

▼△▼△

平成20年度新エネルギーベンチャー技術革新事業の公募について

新エネルギー等の導入普及には、技術的課題とともに、経済性の面での制約が課題となっているため、本事業では、特に導入を促進すべきエネルギー分野の技術開発を推進するとともに、実用段階に至っているものの経済性の面での制約により普及が進んでいないものについても事業化を支援します。

- 公募期間: 2008年02月14日(木)～2008年04月14日(月)
- 詳細:
http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/200214_2/200214_2.html
- 問い合わせ:
NEDO技術開発機構 新エネルギー技術開発部(河口、薄井)
TEL: 044-520-5274
FAX: 044-520-5276
E-mail: venture@nedo.go.jp

▼△▼△

「イノベーション推進事業」に係る研究開発テーマの公募開始について
(産業技術実用化開発助成事業、研究開発型ベンチャー技術開発助成事業、次世代戦略技術実用化開発助成事業)

- 公募期間: 2008年04月01日(火)～2008年05月28日(水)
- 詳細:
http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/200304_3/200304_3.html
- 問い合わせ:
NEDO技術開発機構 研究開発推進部
技術コーディネートグループ 公募チーム 林



良いシーズをつなぐ知の連携システム(つなぐしくみ)平成20年度募集について

本システムは、大学等で創出・育成された技術シーズの中から実用化に向けた発展が期待される課題を収集し、目利き人材が特許、技術や市場規模等の評価分析を行って次の実用化ステップへ円滑につなげる支援を行うことにより、実用化を促進することを目的とします。

■公募期間: 2008年02月18日(月)～2008年04月30日(水)

■詳細: <http://www.jst.go.jp/tt/tsunagu/contents.html>

■問い合わせ:

独立行政法人科学技術振興機構

産学連携事業本部技術移転促進部シーズ展開課 つなぐしくみ担当

TEL: 03-5214-7519

E-mail: tsunagu@jst.go.jp



平成20年度地域イノベーション創出総合支援事業「研究成果実用化検討(可能性試験)」 (ベンチャー企業及び中小企業向け支援制度)

研究成果実用化検討(可能性試験)とは、地域イノベーション創出総合支援事業において、新たに産業界・企業向けに、JSTイノベーションプラザ大阪が独自に実施する公募制度で、ベンチャー企業及び中小企業を対象に、ものづくりの基盤技術等の高度化や製品等実用化に向けた可能性試験を、大学等の支援を得るなどして実施していただきます。

■公募期間: 2008年03月03日(月)～2008年04月17日(月)

■詳細:

http://www.osakajst-plaza.jp/topics/20080303_0417/index.html

■問い合わせ:

独立行政法人科学技術振興機構

JSTイノベーションプラザ大阪

TEL: 0725-51-3350

FAX: 0725-51-3360

E-mail: info@osakajst-plaza.jp



【4】後援: 彩都バイオヒルズクラブ---「プロテオミクスシンポジウム」

彩都バイオヒルズクラブは、生命科学における研究・開発活動や産学官連携の推進等によって、生命科学の振興や成果の適切な社会還元を図るための活動を行っております。

活動の一環として共同機器の利用などに取り組んでおりますが、彩都バイオインキュベータ内に、クラブ会員向けにプロテオミクス解析の受託や技術支援サービスを行うこと(運営に関しては株式会社セラバリュースに委託)を目的に、本年2月に(株)セラバリュースの一部門として彩都プロテオミクス解析センターがオープンしました。

彩都ライフサイエンスパークでは新たにインキュベータ施設の建設が進んでおり、更なる発展が期待されております。本シンポジウムでは、彩都プロテオミクス解析センターの開設に合わせて、蛋白質解析に関連する最先端の講演を予定しております。

日時: 平成20年4月28日(月)、午後3時～午後5時30分

会場: 大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 第2会議室(2階)

主催: 彩都バイオヒルズクラブ

後援: NPO 法人 青い銀杏の会

協賛: 株式会社セラバリュース、八洲薬品株式会社

【プログラム】

15:00～15:05

■開会の挨拶

山西弘一 彩都バイオヒルズクラブ 理事長

独立行政法人医薬基盤研究所 理事長

15:05～15:45

■彩都プロテオミクス解析センターの紹介
福田宏之 株式会社セラバリュース
プロテオミクス解析センター長

15:45 ~ 16:35

■細胞内シグナル伝達のレドックス(酸化還元)制御
三木裕明 大阪大学蛋白質研究所 教授

16:35 ~ 17:25

■アミロイドβ凝集体の立体構造解析と神経細胞毒性発現機構
入江一浩 京都大学 大学院農学研究科 教授

17:25 ~ 17:30

■閉会の挨拶
西尾章治郎 彩都バイオヒルズクラブ 副理事長
大阪大学理事 副学長

参加について;事前登録制、無料。

問い合わせ:彩都バイオヒルズクラブ事務局 山戸 TEL:072-640-1173

【5】編集部からのお知らせ

☆☆☆☆

青い銀杏の会メールマガジン編集部では、会員企業様からのお知らせや特別賛助会員様、賛助会員様よりメッセージ、勉強会お知らせ等をお待ちしております。

会員同士の活発な情報交換のために、宜しくお願いいたします。

メールマガジン連絡先: mailmz@osaka-u.com

☆☆☆☆

編集後記

第12回青銀会メールマガジン最後までお読み頂きありがとうございました。
2月が嵐のように過ぎ去り気がつけば4月になりました。ぽかぽか暖かい春の様な日もあれば、北風の強い冬の様な日もあって、寒暖差が激しく体調を崩しやすい季節ですね。
年度初めはお忙しい時期かと思いますが、そんな時こそ食事をしっかり採って元気に乗り切ってください。

(文責 川上)

- 発行責任者: 青い銀杏の会 <http://www.osaka-u.com/>
■ 編集: 青い銀杏の会 学生会会Az <http://www.osaka-u.com/gakusei-az/>
□ メールマガジン連絡先: mailmz@osaka-u.com
■ このメールマガジンの、お知り合いへの紹介や転送は自由です。
□ Copyright (c) 2007 青い銀杏の会. All rights reserved.